



くらすめ～る

学級通信

油谷中学校 1年

担任：林 秀樹先生
生徒：21名

夢に向かって！
— みんなで語れる思い出を —

四月の初めに、三つの学校から集まり出会った新しい仲間と三年間お互いがんばっていかうと決めた学級目標が「夢・前進・勇志」でした。一人一人が夢をもち、実現に向けて前進しよう。苦しいことがあっても逃げずに立ち向かう勇気をもとう。一人でだめな時にはみんな協力して勇気を出せるように志そう。そんな願いを込めて作ったの思い出します。

残そうと始めた学級の歴史作り、名づけて「そして伝説へ」毎日一枚、短冊にその日に一番印象に残ったこと、友達に助けられたこと、旅行や遠足などの楽しい行事などを書いて教室の後ろにはっていきま



歳時記

時雨

時雨しぐれ：冷たそうな雰囲気は分かるけど、さて、秋の季節かな冬の季節かなと迷う方も多いのではないだろうか。時雨は、冬の初めごろに降ったりやんだりする雨のことで冬の季語です。時雨らしいものは晩秋にも降りますが、「秋時雨」といつて区別していません。

都に多いためでしょうか。旧制の第三高等学校の寮歌にも初時雨という言葉があったそうです。「しぐれ」といえば三重県桑名の名産「しぐれ蛤はまぐり」が有名です。シヨウガ、サンシヨウなどのスパイスを入れて煮たものです。「しぐれ」という言葉は身近で使われています。

最近天気予報がより正確になりましたが、時雨などという風情ある言葉はあまり聞かなくなりました。まして、涙の出そうな気分を「時雨ごち」なんて表現することは少なくなりました。また、「時雨月」というのは時雨がよく降る陰暦十月の異称です。俳人松尾芭蕉はこの時雨の風情を好んでいたといえます。陰暦十月十二日に亡くなったので、この日を芭蕉忌と呼んでいます。

十二月一日は「灯台記念日」です。日本の近代文化の先駆けとなった西洋技術に基づく灯台の建設は、明治元年に始まりました。観光客が見学できる灯台も各地にあります。灯台に、より親しんでみてはいかがでしょうか。

時雨が詩歌によく登場するのは、片時雨といって、山の片方だけに降ってその風情が面白いのと、京都に北山時雨という言葉があるように、京

